

禁酒の神 木の宮さん

県道勢子辻吉原線添い富士東高校の南側に
小高い森が見えます。これが木の宮神社で厄
難除けの神として知られまた、禁酒の神でも
あります。

毎月旧の十五日に例祭、元日に歳旦祭、旧
の三月十五日に大祭が行われます。

小鳥が救った木の宮さん

木の宮さんは、神々の中でも男器量にめぐ
まれ、才気煥発であつたが大酒飲みで暴れん
坊でした。

ある日のこと、木の宮さんは悪友を誘い晩
秋の田にくつきり浮かぶ新雪の富士を仰ぎ狩



木の宮神社

昭和五十八年十一月五日号

りに出ました。狩りの結果は上々で、その夜の酒宴はいつになく盛んでした。

どれほど経つたろうか、酔いつぶれた木の宮さんの耳もとをくすぐる者がいました。うるさいので払いのけると、また耳をつつくる者がいました。

木の宮さんは怒ってはね起きるとそこにはだれもいません。ただ一羽のほお白が足もとをつついていたのでした。

さらによく見るとまわりは火の海でした。木の宮さん達の不注意の残火で猛火は草原をなめつくそうとしていました。命からがら逃れた木の宮さんはこの危機を救ってくれたあの小鳥を思い出し涙を流しました。

それ以来、木の宮さんは酒を絶ち、好きな小鳥を食するのをやめ別人のようになり多く

の者に慕われる神になりました。

このような言い伝えのある木の宮さんは、今は春には桜、秋にはもみじ等に囲まれ行楽客で賑わいます。

すぐ近くに住む中村さんは、昔とくらべて祭りがすたれていくのがさびしいと語ってくれました。

